

兵庫県保険医協会北阪神支部 第5回在宅ケア研究会

参加無料

『脳卒中患者のケーススタディ ～在宅の現場から』

日時 **10月3日(土) 16～18時**

講師 兵庫医科大学篠山病院 (地域総合医療学講座・
脳神経外科専門医) **島田 真一 先生**
ふじき耳鼻咽喉科 (宝塚市) **藤木 宏也 先生**
かわむら歯科 (伊丹市) **川村 雅之 先生**

会場 **伊丹シティホテル3F光輝の間** (終了後無料懇親会)

脳血管障害では高率に嚥下障害を合併します。病巣によって嚥下障害のパターンは異なり、そのアプローチも異なります。今回は嚥下メカニズムの基礎、急性期からの嚥下リハビリテーション及び回復期、維持期(在宅)への連携についてお話をさせていただきます。

また、時間がありましたら、今後伊丹恒生病院で行おうと考えているオープンシステムのVFについて、ご紹介させていただきます(島田記)。

在宅患者の嚥下障害にかかわる問題が日常化するようになってきました。脳血管障害では摂食嚥下障害の合併が高率にみられ、回復の障害の重大因子となっています。その対策は医療多職種によるチームアプローチが必要です。

耳鼻咽喉科では嚥下内視鏡検査を主体に摂食嚥下の評価を行い、それに基づいた食事指導、訓練の方針および治療法の選択の判断を担当します。今ところその取り組みは遅れています(藤木記)。



歯科往診患者さんの中に、脳血管障害が原因で通院困難になったケースは比較的多く見受けられます。原因となる基礎疾患があり、服用薬についても要注意です。また、片麻痺や嚥下障害も多く、日常生活でのケアを含めた指導、リハビリも必要です。

今回は、短時間ではありますがアウトラインについてお話ししたいと思います(川村記)。

※お問合せは、事務局・吉永、小川 (☎ 078-393-1809) まで

(切り取らずに返信ください)

FAX 078-393-1802 宛

▶ 『脳卒中患者のケーススタディ～在宅の現場から』(10/3)に
参加する 約 () 人 / 同懇親会に参加する 約 () 人

医療機関名 _____ お名前と職種 _____

〒 _____ FAX _____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2009年9月25日号 No.197

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

第24回支部総会を開催

「アクティブエイジング」で地域再生



「高齢者を財産とする社会を」と高橋先生

北阪神支部は9月5日、伊丹市立商工プラザで第24回総会を開催。総会議事では中井通治支部長などが再選され、新たに城田勲先生(伊丹市)、澤村新先生(宝塚市)が幹事に選出されたほか、「社会保障優先の政治へ転換するために政権交代後も力を合わせよう」などとする議案が採択された。

記念講演では、日生協医療部会運営委員長・医療生協かわち野楠根診療所所長の高橋泰行先生が「アクティブエイジングと高齢者にやさしい診療所」をテーマに講演。会員やスタッフ、市民ら40人が参加した。

講師は、『『少子高齢化』という表現にみられる『高齢社会は悪い』とするマイナスのイメージを払拭する必要がある』とした上で、アクティブエイジングを“人が歳を重ねても生活の質が向上するように、健康や安全、社会参加の機会を最適化するプロセス”と位置づけ、プライマリケアの重要性を強調。「疾病の予防や早期発見、継続的・包括的ケアを担保する施設整備を」と“高齢者にやさしいまち・診療所づくり”を提唱した。

また、「高齢期に特徴的な不安として認知症があげられるが、認知障害は加齢現象の一部でもあり、特別な異常状態でない」とし、自院での認知症サポーターの医療スタッフの育成法や環境整備などの取り組みをツールキットを使って具体的に説明した。



“高齢者にやさしい都市づくり”を学びあった

(2面につづく)



(1面からつづく)

また、助産院とデイサービスを併設し、乳幼児と高齢者が交流している事例を紹介。「お産や子育て事情が困難になる中、高齢者が家族機能の再生を担う可能性も大いにある。元気な高齢者をまちづくりの主役にすえて地域を活性化させよう」と呼びかけた。

参加者からは「日常の認知症患者への接し方の認識が変わった」「より多くの陽気な高齢者と地域で共生できればとの思いを新たにした」などの感想がよせられた。

恒例のブルワリービレッジ長寿蔵での懇親会では、来賓の市会、県会、国会の各議員も交えて高橋先生を囲み和やかに会食。できたての地ビールに上機嫌の先生方から「和気藹々の場は保険医協会ならでは。今年も元気に運動に取り組もう」「研究会活動もますます活発にしたい」などの声も出され、楽しく交流した(次号感想文掲載予定)。



「新幹事を迎えての今年度も頑張ろう」と中井支部長(上)懇親会では市村浩一郎衆議院議員をはじめ議員各氏もあいさつ(下)

兵庫県保険医協会北阪神支部役員体制

(2009年9月現在・地区別・五十音順・敬称略)

本年度もよろしくお願ひします！！

■支部役員 (2009年9月～2011年8月)

<支部長> 1人 中井 通治 (宝塚市)

<副支部長> 4人 川村 雅之 (伊丹市) 西山 茂樹 (伊丹市)
林 宗茂 (伊丹市) 脇野 耕一 (宝塚市)

<幹事> 13人 青木 英夫 (伊丹市) 上り口寛武 (伊丹市)
太田 威彦 (伊丹市) 大森 英夫 (伊丹市)
工藤大八郎 (伊丹市) 小泉 勇 (伊丹市)
城田 勲 (伊丹市・新) 竹内 重人 (伊丹市)
谷口 紀善 (伊丹市) 安井 武義 (伊丹市)
高 俊永 (宝塚市) 澤村 新 (宝塚市・新)
田中 健一 (宝塚市)

宝塚社保協第5回総会

セーフティネット再構築を

県社保協・阿江善春氏が学習記念講演



「健康格差社会の是正を」と阿江氏

社会保障をよくする宝塚の会(宝塚社保協)は8月26日、宝塚市立西公民館で第5回定期総会を開催。20人が参加した。総会議事では「社会保障を優先する政治への転換を」とする決議が採択されたほか、中井通治先生、脇野耕一先生(協会理事)が副会長に再選された。総会議事で発言した脇野先生は「中川民主市政に転換してからの今期の社保協運動は非常に重要。後期高齢者医療制度廃止署名など継続した取り組みで政権交代後も力をあわせよう」と訴えた。

学習講演では県社保協事務局次長の阿江善春氏が「人と組織のネットワークづくり～地域社保協前進のために」と題して講演。「高齢者では所得が低いほど抑うつ発症率が高い」「低所得層で要介護者がもっとも多い」などの事例をあげ、お金のあるなしで生活水準が決まる「健康格差社会」といえる状況が広がっている状況を指摘。自己負担増や生活破壊によって健康増進の習慣や健診も含む医療受診行動が抑制され、低所得者ほど顕著に健康に悪影響をきたしている流れを説明した。

また講師は、国内の自殺者が10年連続で年間3万人を超えていることに触れ、「1日にすると85人以上の人が自ら命を絶つ世の中は異常。『社会経済格差の拡大』→『健康被害の心身相関』→『人間と社会の荒廃』という連鎖を断ち切る取り組みが急務」とし、具体的策として社保協相談活動の活性化のために「加盟団体間の連携で団体の専門性と相談者の抱える問題を早期にすり合わせる必要がある」と呼びかけた。

08年度社保協の主な取り組みと成果

- ・ 後期高齢者医療制度の廃止を求める「年金天引き日行動」を6回実施。署名計391筆を集める
- ・ 「後期高齢者医療制度の撤廃を求める意見書」を提出する対市請願が採択
- ・ ヒブワクチンの接種費用助成の対市申し入れを実施
- ・ 自治体キャラバンを実施。育成会(学童保育)の開所時間改善要求などが実る(長期休暇中9:00→8:30開所へ)